

# 泉地区活性化計画

平成27(2015)年3月

泉自治区

(泉地区地域計画策定委員会)



## 目 次

序章	計画策定にあたって	1
1 章	地区の概要	2
1	位置・面積	2
2	人口・世帯数	3
3	道路・交通	5
4	主要公共公益施設等	5
2 章	地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	7
1	調査概要	7
2	調査結果	7
3 章	地区の魅力・資源と問題点・課題	21
1	地区の魅力・資源	21
2	地区の問題点・課題	23
4 章	地区の活性化計画	24
1	地区の将来像	24
2	地区づくりの基本方針	26
3	地区づくりの基本計画	27
4	計画の推進体制	34
資料	計画策定の取り組み	36



## 序章 計画策定にあたって

### 1 計画策定の目的

泉地区は、美しい田園景観の広がる地区で、近年ほ場整備が完了するとともに2つの農事組合法人（以下、「農業法人」という）が設立され、農地の保全及び特徴のある農業が展開されています。また、地区の中央を南北に連絡する市道が整備されたほか、泉コミュニティホームの駐車場の整備、消防屯所の新設などが行われ、生活環境が整備されてきています。しかしながら、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区の活力が失われてきています。

こうした状況を打開するには、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、泉自治区では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、誰もが誇りを持ち、自慢できる地区づくりを目指して「泉地区活性化計画」の策定に取り組みました。

### 2 計画の役割

「泉地区活性化計画」は、泉自治区が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、泉地区出身者、都市住民など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

### 3 計画策定への取り組み

泉自治区では、各種団体の代表者などとともに「泉地区地域計画策定委員会」を設置し、「泉地区活性化計画」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区内住民（16歳以上）へのアンケート調査の実施、地区住民全員を対象とした意見交換会（ワークショップ）を行いました。

### 4 計画の期間

計画の期間は、平成27(2015)～31(2019)年度までの5年間とします。

# 1章 地区の概要

## 1 位置・面積

本地区は、三原市久井地域の北西部に位置しており、面積は約6.2km<sup>2</sup>です。

久井支所までは車を利用した場合約10分、三原市中心部までは約40分です。また、スーパーや病院のある世羅町中心部までは約10分です。

図1 泉地区の位置



## 2 人口・世帯数

### (1) 人口の動向

本地区の総人口を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で371人になっており、過去5年間で約9%減少しています。

年齢4区分別人口をみると、平成22(2010)年で0～14歳32人、15～64歳200人、65～74歳53人、75歳以上86人になっており、65歳以上の割合は約38%になっています。

年齢別にみると、過去5年間で75歳未満の各年齢層は減少、75歳以上は微増となっています。

表1 人口の推移 (単位：人，%)

区 分		平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
実数	0～14歳	43	32	△ 11
	15～64歳	204	200	△ 4
	65～74歳	74	53	△ 21
	75歳以上	85	86	1
	合計	406	371	△ 35
割合	0～14歳	10.6	8.6	△ 2.0
	15～64歳	50.2	53.9	3.7
	65～74歳	18.2	14.3	△ 3.9
	75歳以上	20.9	23.2	2.3

### (2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で138世帯になっており、過去5年間で1世帯減少とほぼ横ばいになっています。

1世帯当たり世帯人員は平成22(2010)年で2.69人になっており、過去5年間で0.23人減少しています。

表2 世帯数等の推移

区 分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
世帯数 (世帯)	139	138	△ 1
世帯人員 (人)	2.92	2.69	△ 0.23

### (3) 人口の将来見通し

人口の将来見通しを平成17(2005)年と平成22(2010)年の国勢調査人口をもとに、年齢コーホート推移率法で推計すると、平成31(2019)年で約330人、平成36(2024)年で約310人になり、平成22(2010)年と平成36(2024)年を比較すると約70人の減少が見込まれます。

年齢別に平成22(2010)年と平成36(2024)年の人口を比較すると、平成17(2005)年から22(2010)年にかけて20歳代が増加した影響から0～14歳は横ばいで推移するものと見込まれます。そのほかでは、15～64歳が200人から158人、65～74歳が53人から49人、75歳以上が86人から66人と、15歳以上の各年齢層ともに減少するものと見込まれます。

また、高齢化率は、平成31(2019)年約39%、平成36(2024)年約38%と横ばいで推移するものと見込まれます。

図2 年齢区分別人口推計

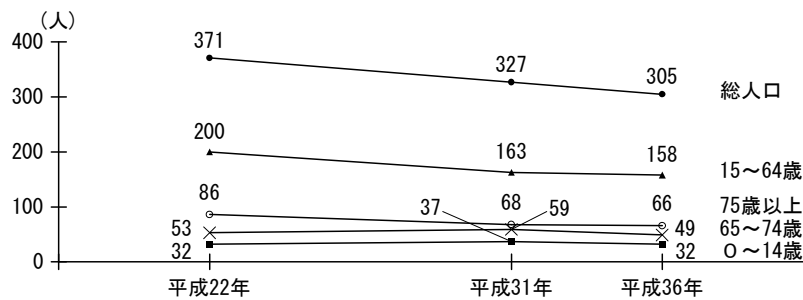


図3 年齢区分別人口割合

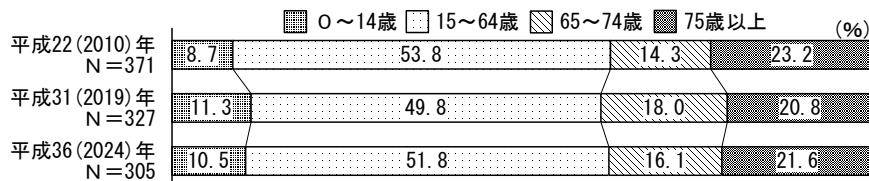
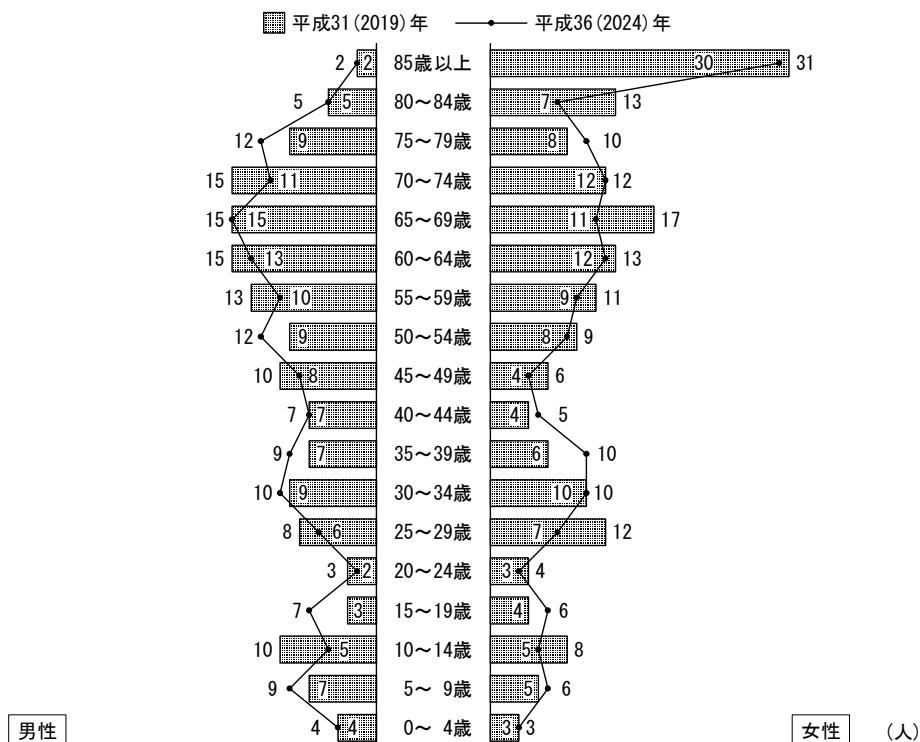


図4 男女別5歳階級別人口





### 3 道路・交通

道路網は、一般県道大和久井線が東西に走り、久井地域江木地区、大和地域下徳良地区と連絡しています。また、市道が南北に走っており、この2路線が地区の骨格を形成しています。

地区の公共交通としては、三原市中心部と大和地域下徳良地区を連絡する路線バスが一般県道大和久井線及び同羽和泉室町線を運行しているほか、泉地区と久井支所周辺及び江木地区中心部を連絡する久井ふれあいバスが週2日運行しています。

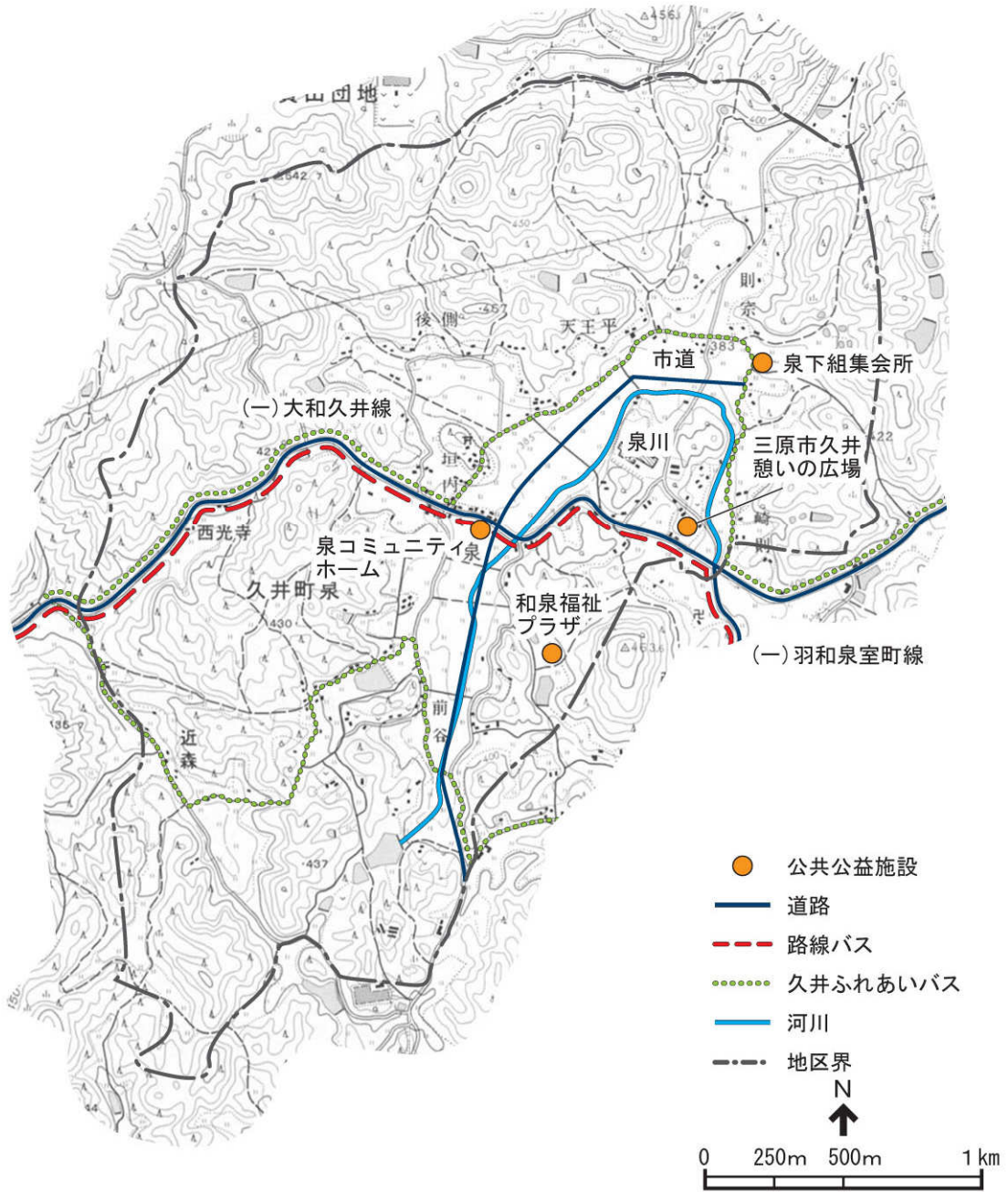
### 4 主要公共公益施設等

本地区には、文化集会施設として泉コミュニティホームと和泉福祉プラザ、スポーツ施設として三原市久井憩いの広場があります。

表3 泉地区の公共公益施設等

区 分	名 称
文化集会施設	泉コミュニティホーム
	和泉福祉プラザ
	泉下組集会所
スポーツ施設	三原市久井憩いの広場
道路・交通	一般県道大和久井線
	一般県道羽和泉室町線
	路線バス（徳良線）
	久井ふれあいバス

図5 泉地区の公共公益施設等



## 2章 地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

### 1 調査概要

本調査は、地区内住民（16歳以上）の意見を把握し、「泉地区活性化計画」の策定に反映するために行ったもので、対象者全員に調査票を配布しました。その結果、調査票の回収件数は264件でした。

### 2 調査結果

#### (1) 回答者自身について

回答者の性別は、「男性」43.2%、「女性」52.3%で、女性の割合がやや高くなっています。

年齢は、「65～74歳」及び「75～84歳」が20.1%で最も割合が高く、次いで「50歳代」18.2%、「60～64歳」11.7%、「40歳代」10.2%、「85歳以上」7.2%、「30歳代」6.1%、「20歳代」4.9%、「19歳以下」1.1%の順になっており、65歳以上が約5割を占めています。

家族構成は、「三世代・四世代」が20.5%で最も割合が高く、次いで「二世代（子どもと同居）」20.1%、「二世代（親と同居）」19.7%、「一人暮らし（65歳以上）」11.7%、「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」10.6%、「夫婦二人暮らし（夫婦ともに65歳未満）」7.2%、「一人暮らし（65歳未満）」2.3%の順になっており、「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」を合わせた割合が2割以上を占めています。

図6 性別

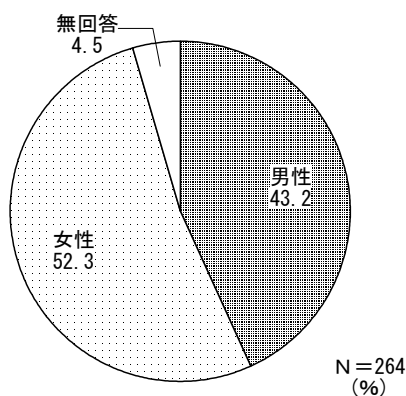


図7 年齢

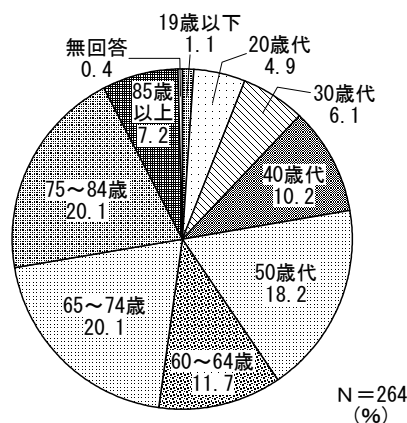
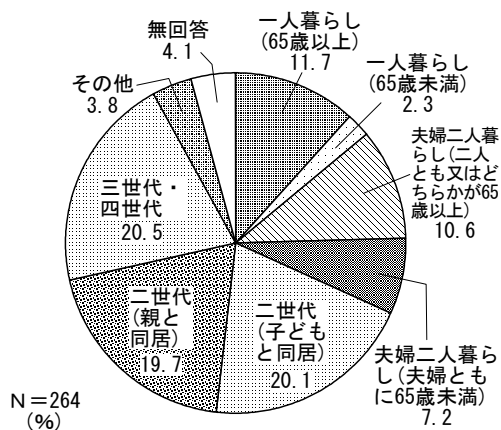


図8 家族構成

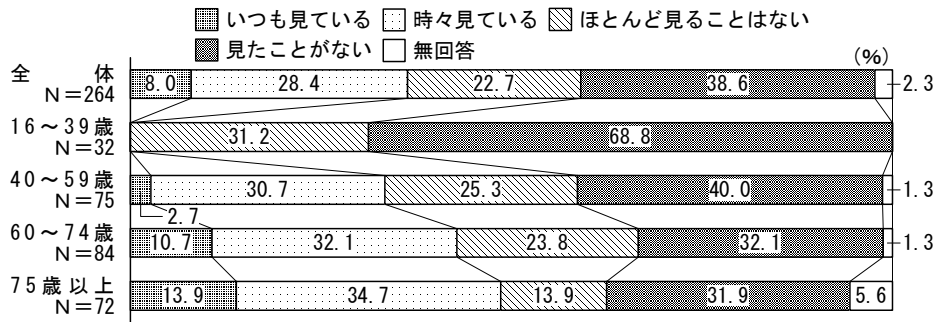


## (2) 掲示板の閲覧や便りの発行について

### ア 掲示板の閲覧状況

掲示板の閲覧状況は、「いつも見ている」8.0%、「時々見ている」28.4%で、これらを合わせた掲示板を閲覧している人の割合は36.4%です。

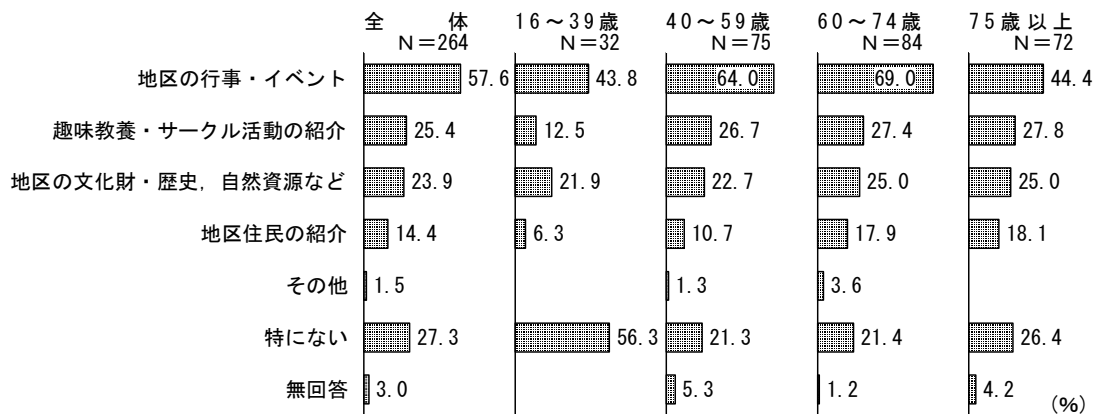
図9 掲示板の閲覧状況



### イ 便りに掲載してほしい記事

今後発行する予定の便りに掲載してほしい記事の内容は、「地区の行事・イベント」が57.6%で最も割合が高く、次いで「趣味教養・サークル活動の紹介」25.4%、「地区の文化財・歴史、自然資源など」23.9%、「地区住民の紹介」14.4%の順です。

図10 便りに掲載してほしい記事（複数回答：いくつでも）



### (3) 行事・活動への参加状況と満足度

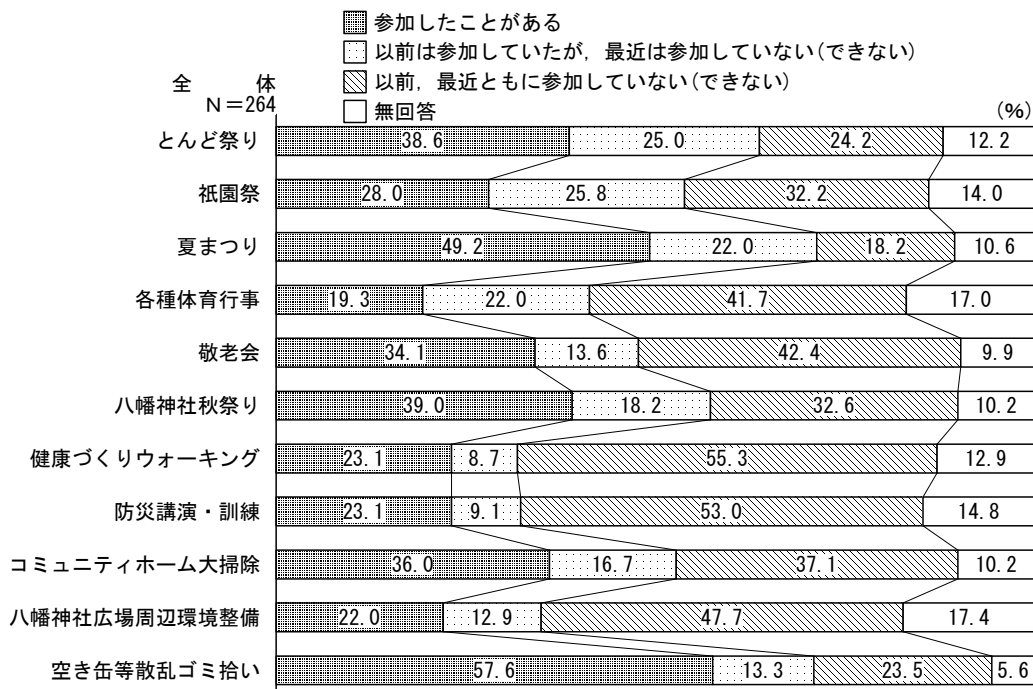
#### ア 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人をみると、「空き缶等散乱ゴミ拾い」が57.6%で最も割合が高く、次いで「夏まつり」49.2%、「八幡神社秋祭り」39.0%、「とんど祭り」38.6%、「コミュニティホーム大掃除」36.0%、「敬老会」34.1%の順で、これら6項目が3割以上になっています。その他では、「祇園祭」28.0%、「健康づくりウォーキング」及び「防災講演・訓練」23.1%、「八幡神社広場周辺環境整備」22.0%、「各種体育行事」19.3%の順です。

また、「以前は参加していたが、最近では参加していない(できない)」と答えた人をみると、「とんど祭り」、「祇園祭」、「夏まつり」及び「各種体育行事」で20%以上と割合がやや高くなっています。

さらに、「以前、最近ともに参加していない(できない)」と答えた人をみると、「健康づくりウォーキング」及び「防災講演・訓練」で5割以上、「各種体育行事」、「敬老会」及び「八幡神社広場周辺環境整備」で4割以上と割合が高くなっています。

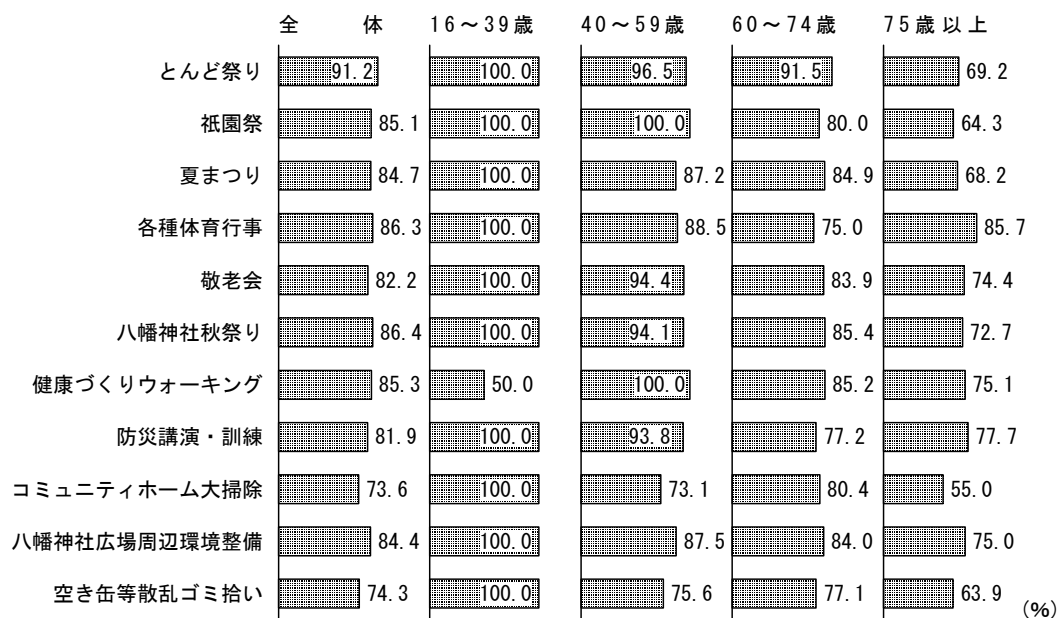
図11 参加状況



## イ 行事・活動に参加した人の満足度

行事や活動へ参加している人の満足度（「良い」と「やや良い」を合わせた割合）をみると、90%台1項目、80%台8項目、70%台2項目で、全ての項目で満足度が高くなっています。特に、「とんど祭り」は91.2%になっています。

図12 満足度

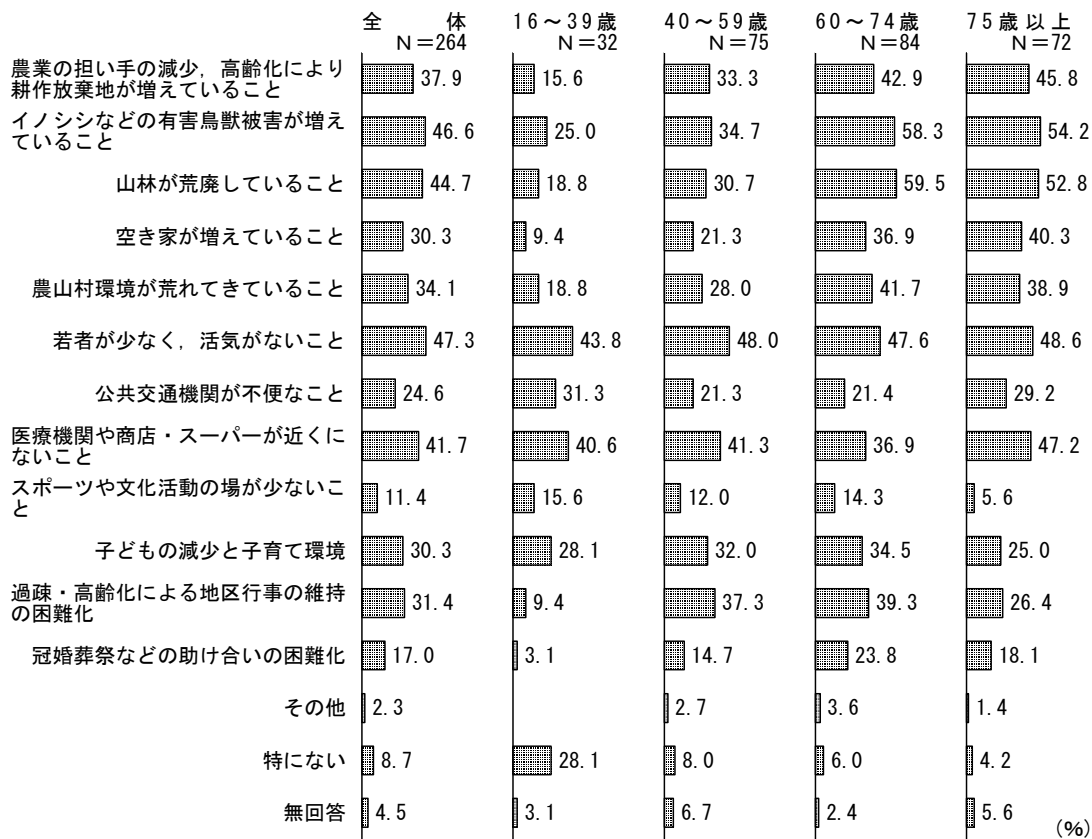


#### (4) 地区の現状や将来のことでの不安や今後の居住意向

##### ア 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること

地区の現状や将来のことでの不安に思っていることは、「若者が少なく、活気がないこと」が47.3%で最も割合が高く、次いで「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」46.6%、「山林が荒廃していること」44.7%、「医療機関や商店・スーパーが近くにならないこと」41.7%、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」37.9%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「農山村環境が荒れてきていること」34.1%、「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」31.4%、「空き家が増えていること」及び「子どもの減少と子育て環境」30.3%などの順です。

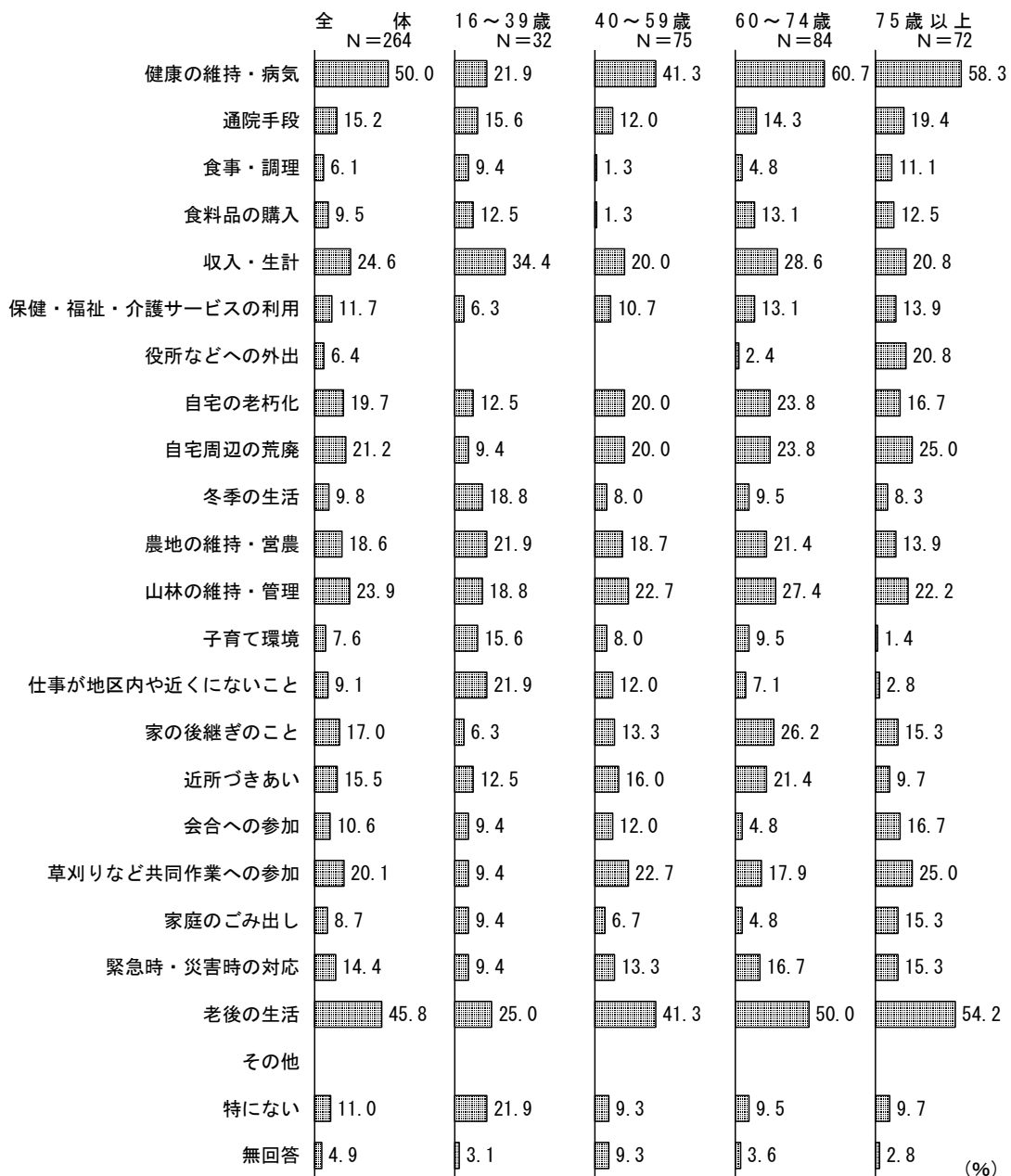
図13 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



## イ 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは、「健康の維持・病気」が50.0%で最も割合が高く、次いで「老後の生活」45.8%の順で、この2項目の割合が高くなっています。その他では、「収入・生計」24.6%、「山林の維持・管理」23.9%「自宅周辺の荒廃」21.2%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「草刈りなど共同作業への参加」20.1%、「自宅の老朽化」19.7%などの順です。

図14 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）

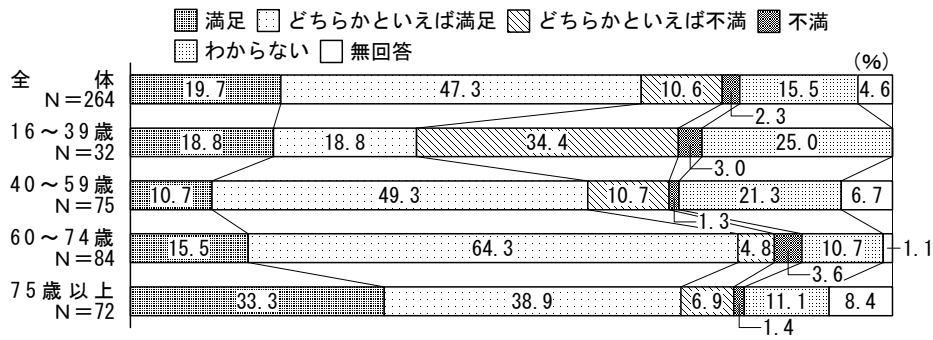




### ウ 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさについては、「満足」19.7%、「どちらかといえば満足」47.3%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は約2/3を占めています。

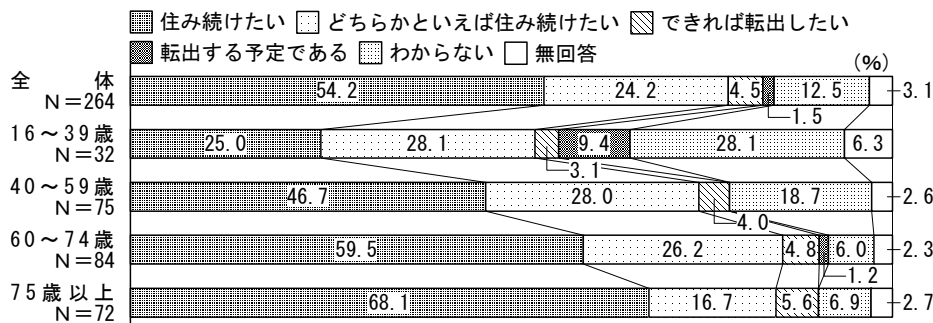
図15 地区の住みやすさの評価



### エ 地区への今後の居住意向

地区への今後の居住意向は、「住み続けたい」54.2%、「どちらかといえば住み続けたい」24.2%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は約8割です。

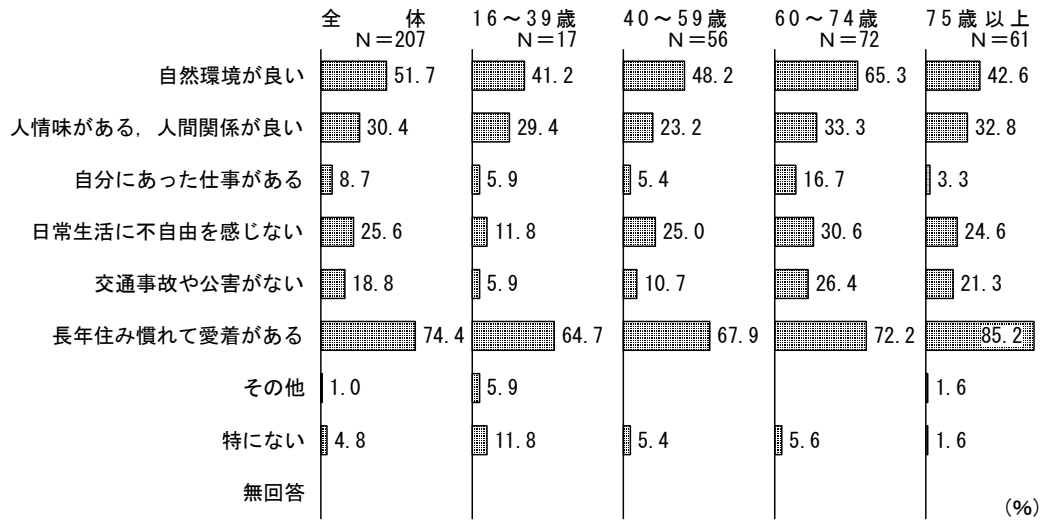
図16 地区への今後の居住意向



### オ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向のある人の住み続けたいと思う理由は、「長年住み慣れて愛着がある」が74.4%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」51.7%の順で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「人情味がある、人間関係が良い」30.4%、「日常生活に不自由を感じない」25.6%、「交通事故や公害がない」18.8%などの順です。

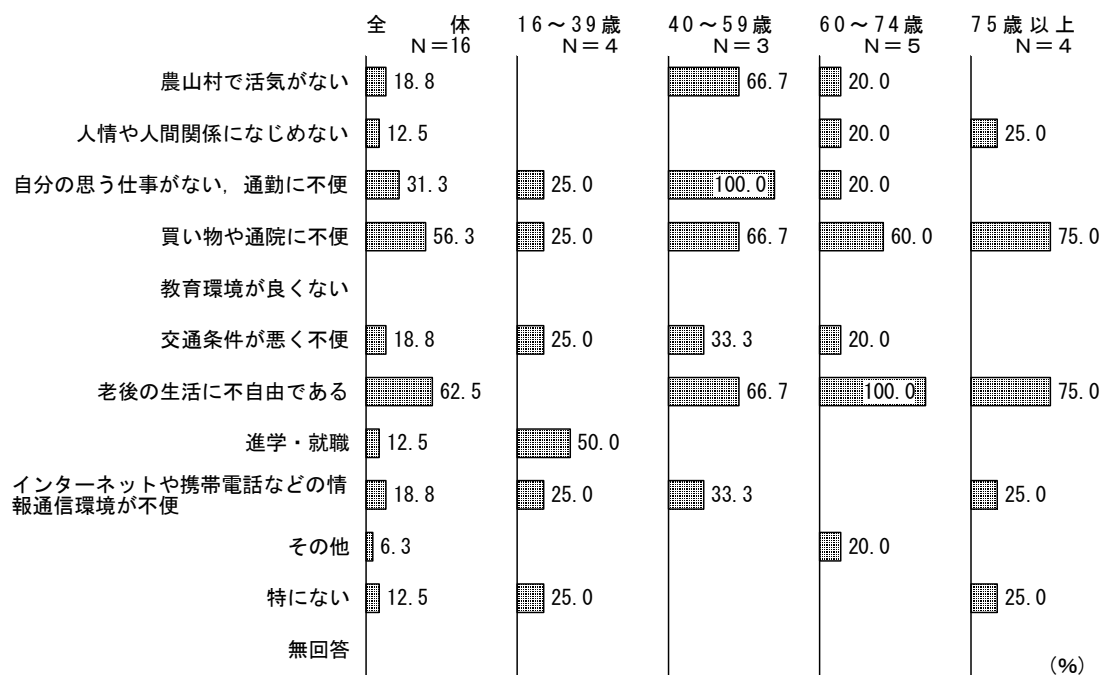
図17 地区に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



### カ 地区を転出したいと思う理由

地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由は、「老後の生活に不自由である」62.5%、「買い物や通院に不便」56.3%で、この2項目を挙げた人の割合が5割以上と高くなっています。

図18 地区を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）

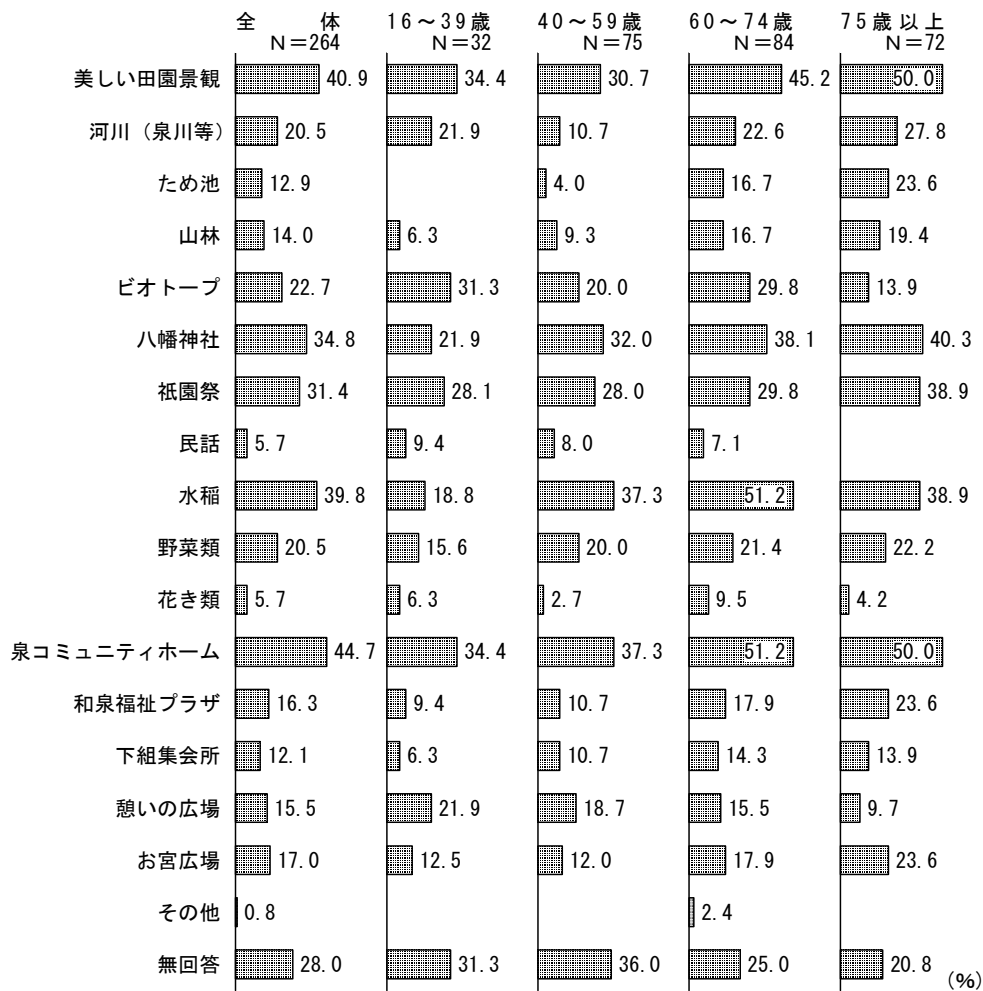


## (5) 今後の地区づくりについて

### ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源としては、「泉コミュニティホーム」が44.7%で最も割合が高く、次いで「美しい田園景観」40.9%、「水稻」39.8%、「八幡神社」34.8%、「祇園祭」31.4%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「ビオトープ」22.7%、「河川（泉川等）」及び「野菜類」20.5%などの順です。

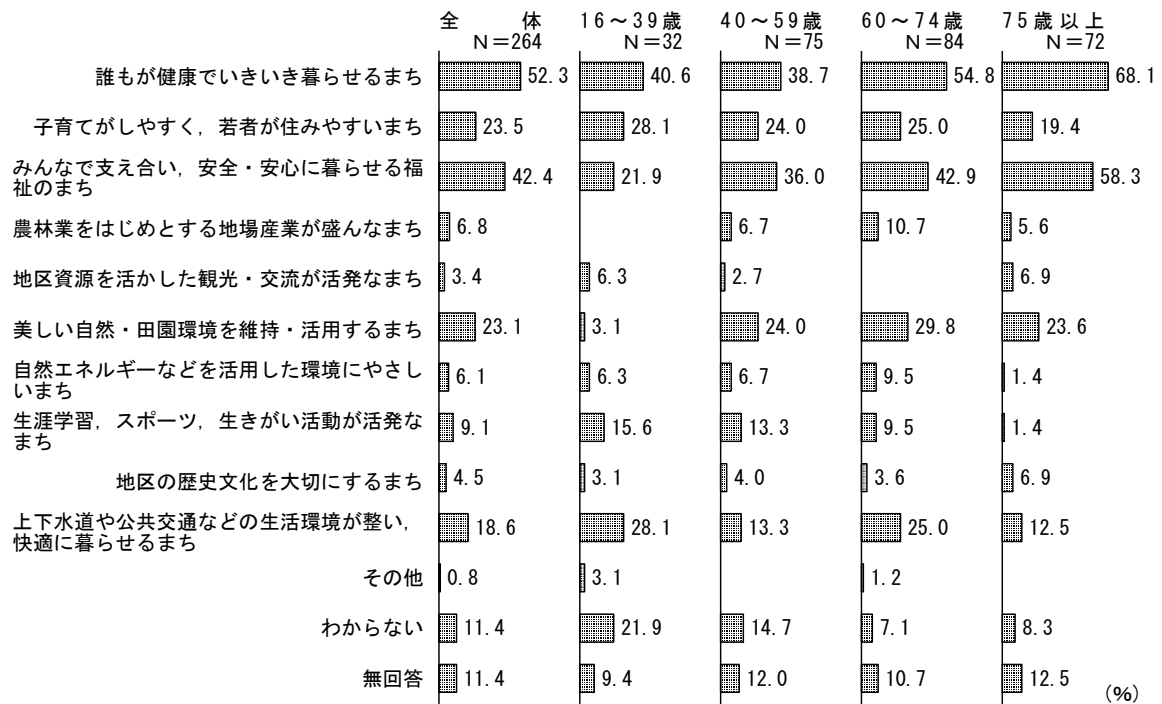
図19 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）



## イ 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」が52.3%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」42.4%の順で、この2項目の割合が高くなっています。その他では、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」23.5%、「美しい自然・田園環境を維持・活用するまち」23.1%などの順です。

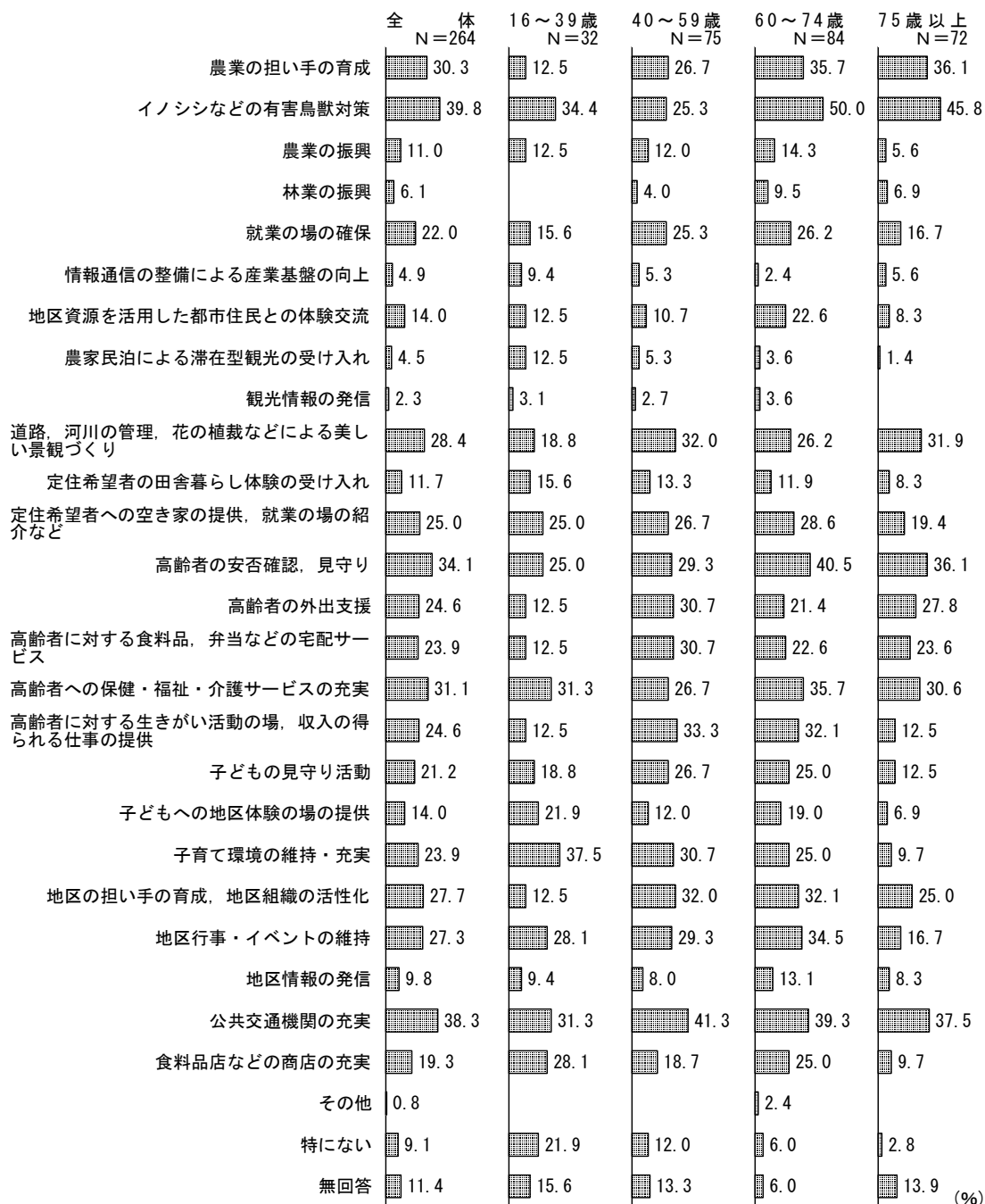
図20 地区の将来像（複数回答：3つ以内）



### ウ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことは、「イノシシなどの有害鳥獣対策」が39.8%で最も割合が高く、次いで「公共交通機関の充実」38.3%、「高齢者の安否確認、見守り」34.1%、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」31.1%、「農業の担い手の育成」30.3%の順で、これら項目が上位5位を占めていますが、全て30%台で突出した項目はありません。その他では、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」28.4%、「地区の担い手の育成、地区組織の活性化」27.7%、「地区行事・イベントの維持」27.3%、「定住希望者への空き家の提供、就業の場の紹介など」25.0%、「高齢者の外出支援」及び「高齢者に対する生きがい活動の場、収入の得られる仕事の提供」24.6%、「高齢者に対する食料品などの宅配サービス」及び「子育て環境の維持・充実」23.9%、「就業の場の確保」22.0%、「子どもの見守り活動」21.2%などの順です。

図21 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）

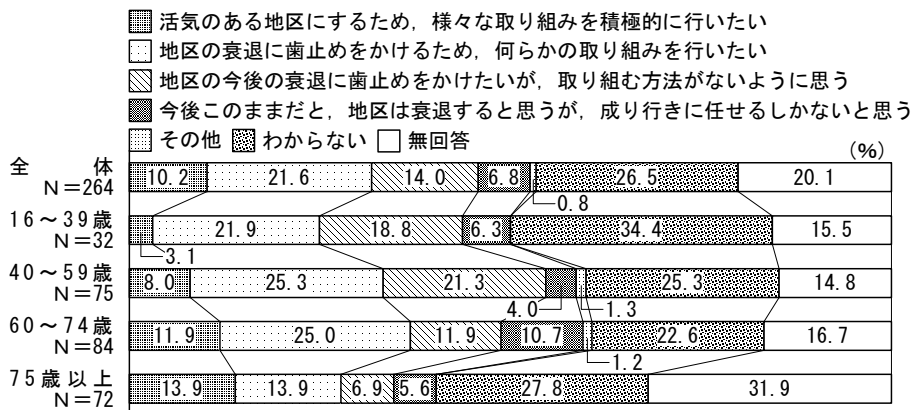


## (6) 泉自治区の活動について

### ア 泉地区の活性化に向けての取り組み意向

泉地区の活性化に向けての取り組み意向は、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」10.2%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」21.6%で、これらを合わせた地区の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は3割以上です。

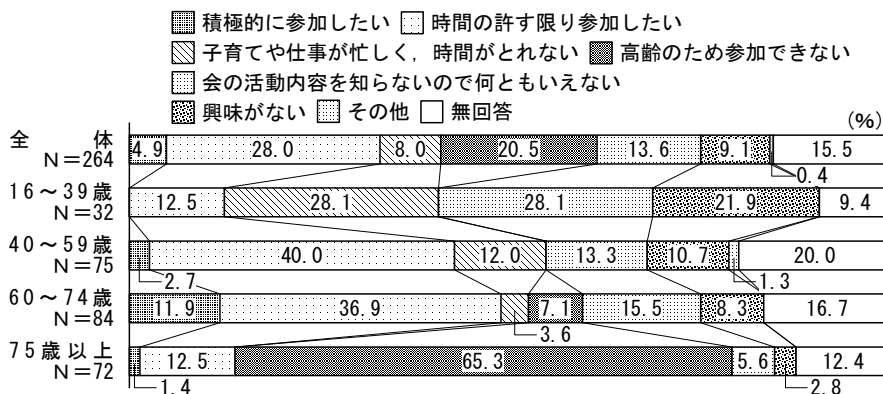
図22 泉地区の活性化に向けての取り組み意向



### イ 泉自治区の活動への参加意向

泉自治区の活動への参加意向は、「積極的に参加したい」4.9%、「時間の許す限り参加したい」28.0%で、これらを合わせた自治区の活動へ参加意向のある人は約1/3です。

図23 泉自治区の活動への参加意向

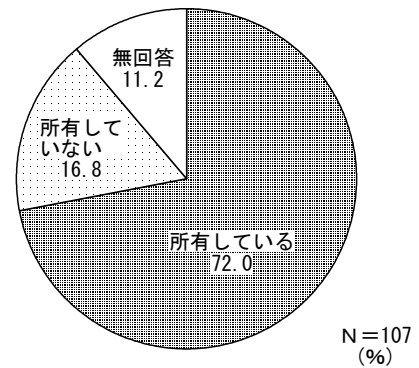


(7) 農地の所有・耕作状況について

ア 農地の所有状況

世帯主であると答えた方で、農地を「所有している」と答えた人は72.0%です。

図24 農地の所有状況



イ 農地を所有している人の状況

(7) 農地の所有面積

農地を所有している人の農地の所有面積は、「50～100アール(5反～1町)未満」と答えた人が32.5%で最も割合が高く、次いで「100～200アール(1～2町)未満」27.3%、「30アール(3反)未満」20.8%、「30～50アール(3～5反)未満」11.7%の順です。

(イ) 農地の現在の耕作状況

農地の現在の耕作状況は、「家族で耕作せず、他の農家や農業法人に耕作を頼んでいる(貸付, 作業委託)」と答えた人が41.6%で最も割合が高く、次いで「家族で耕作するとともに、他の農家や農業法人に耕作を頼んでいる(貸付, 作業委託)」37.7%、「家族で耕作している」19.5%の順で、農業法人に頼んでいる人が約8割を占めています。

図25 農地の所有面積

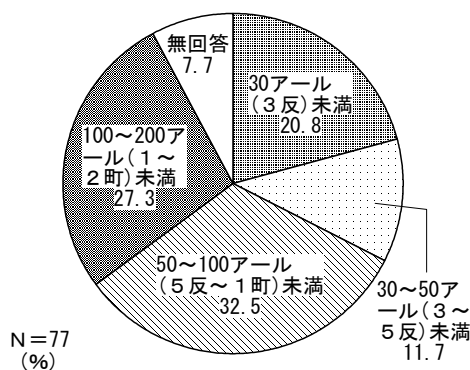
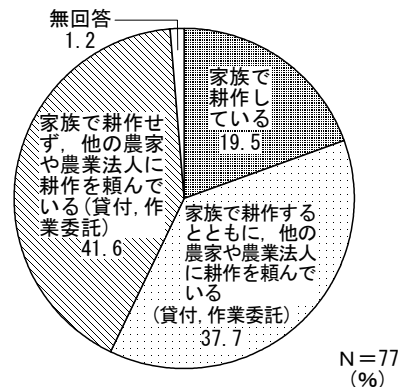


図26 農地の耕作状況



### (ウ) 農産物の販売状況

農産物の販売状況は、「農産物を販売していない」と答えた人が64.9%で約2/3を占めています。農産物を販売している人は13.0%になっており、その内訳は「JAへ出荷している」11.7%、「JAへ出荷するとともに、農産物直販所などで販売している」1.3%で、JAのみへの出荷がほとんどを占めています。

### (エ) 農地の今後の耕作意向

農地の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」と答えた人が41.6%で最も割合が高く、次いで「家族での耕作をやめ、他の農家や農業法人に耕作を頼む（貸付、作業委託）」24.7%、「わからない」18.2%、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農業法人に耕作を頼む面積を増やす（貸付、作業委託）」7.8%、「耕作をやめる」2.6%の順になっており、今後、農業法人へ耕作を頼む面積が増加するものと見込まれます。

図27 農産物の販売状況

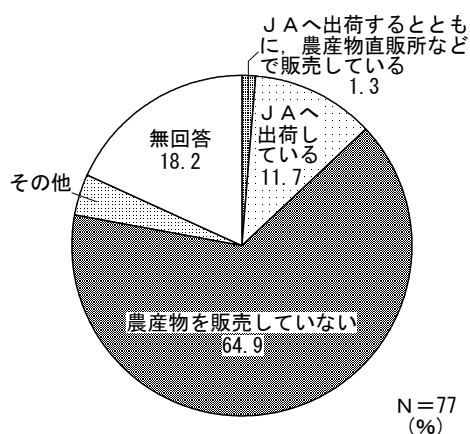
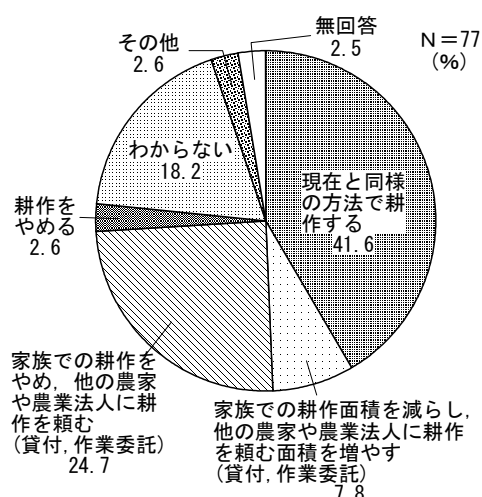


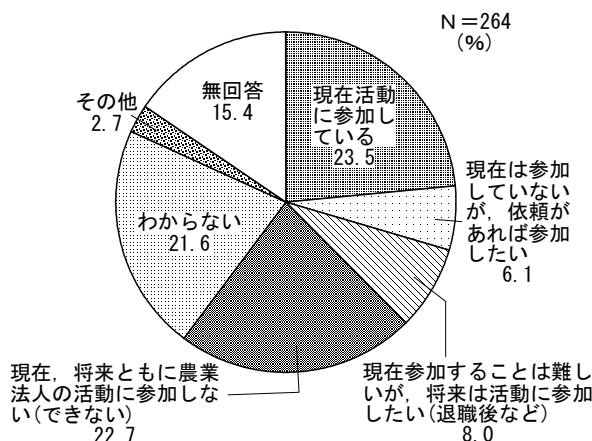
図28 今後の耕作意向



### ウ 農業法人の担い手としての参加意向

農業法人の担い手としての参加意向は、「現在活動に参加している」と答えた人が23.5%です。また、「現在は参加していないが、依頼があれば参加したい」6.1%、「現在参加することは難しいが、将来は活動に参加したい（退職後など）」8.0%で、新規に農業法人の担い手として参加する意向のある人が一定割合います。

図29 農業法人の担い手としての参加意向





### 3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

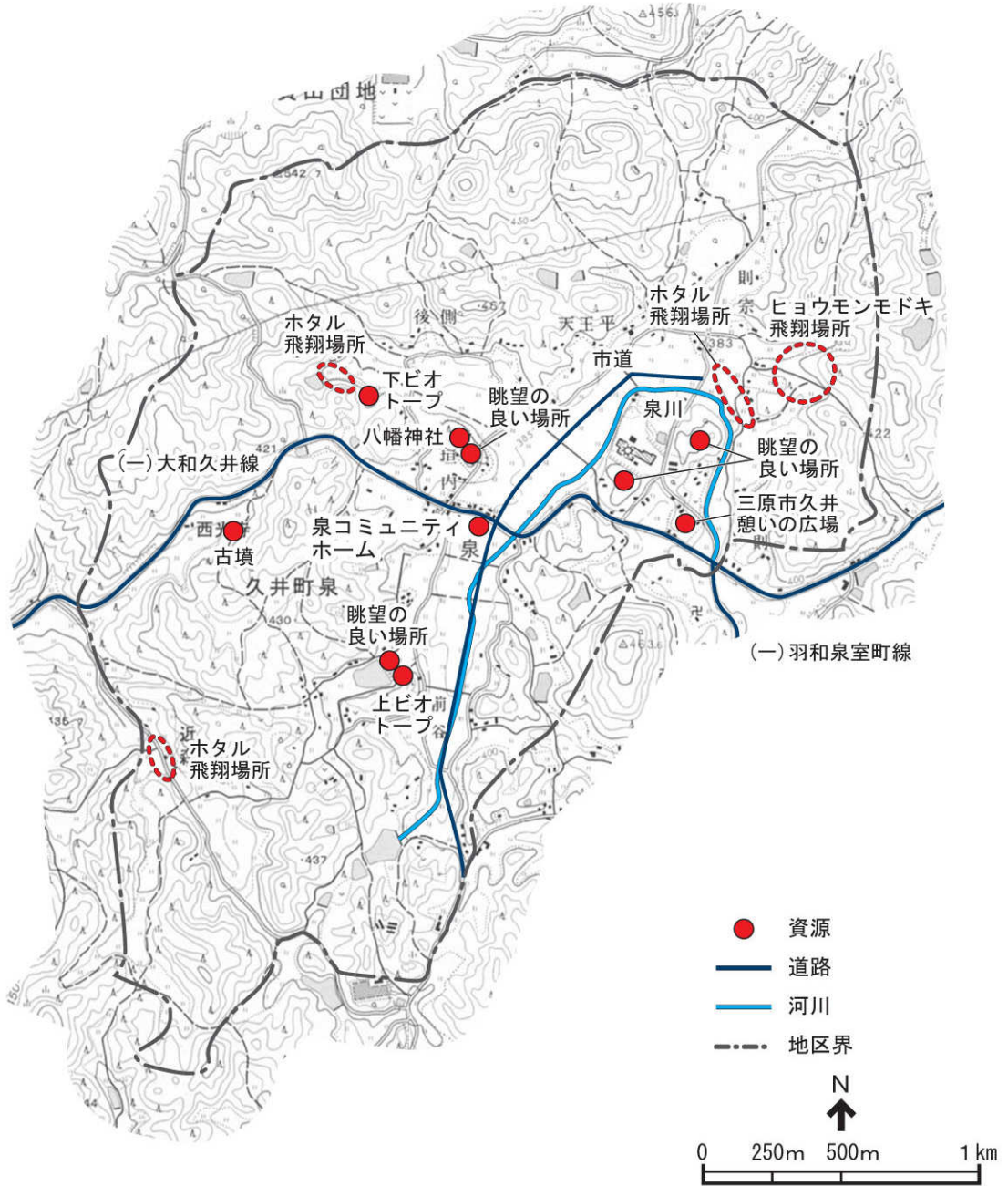
#### 1 地区の魅力・資源

アンケート調査結果及び意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表4 地区の魅力・資源

区分	地区の魅力・資源
地区全体	<ul style="list-style-type: none"><li>・自然（田，山），美しい山並み</li><li>・田舎ならではの風景</li><li>・ほ場整備済みの水田と改良済みの市道で構成される美しい田園景観</li><li>・水良し・土地良し・気候良し，農業に適した自然豊かな泉の大地</li></ul>
自然資源	<ul style="list-style-type: none"><li>・天然水，空気がおいしい</li><li>・きれいな夜空</li><li>・泉川</li><li>・ホテル，ヒョウモンモドキ</li><li>・カブトムシ等の昆虫</li><li>・眺望の良い場所（柳川池の土手，八幡神社広場等）</li></ul>
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"><li>・八幡神社，古墳</li><li>・郷土料理</li><li>・古民家</li></ul>
農業・農地	<ul style="list-style-type: none"><li>・ほ場整備済みの水田</li><li>・農業の担い手として，2つの農業法人がある</li><li>・米，野菜</li><li>・ほ場整備地区内のビオトープ（環境保全型水路）</li><li>・農家等で手づくりされている味噌等の加工品</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・泉コミュニティホーム</li><li>・八幡神社の広場</li><li>・三原市久井憩いの広場</li><li>・空き家</li><li>・改良済みの市道</li></ul>

図30 地区の魅力・資源



## 2 地区の問題点・課題

アンケート調査結果及び意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表5 地区の問題点・課題

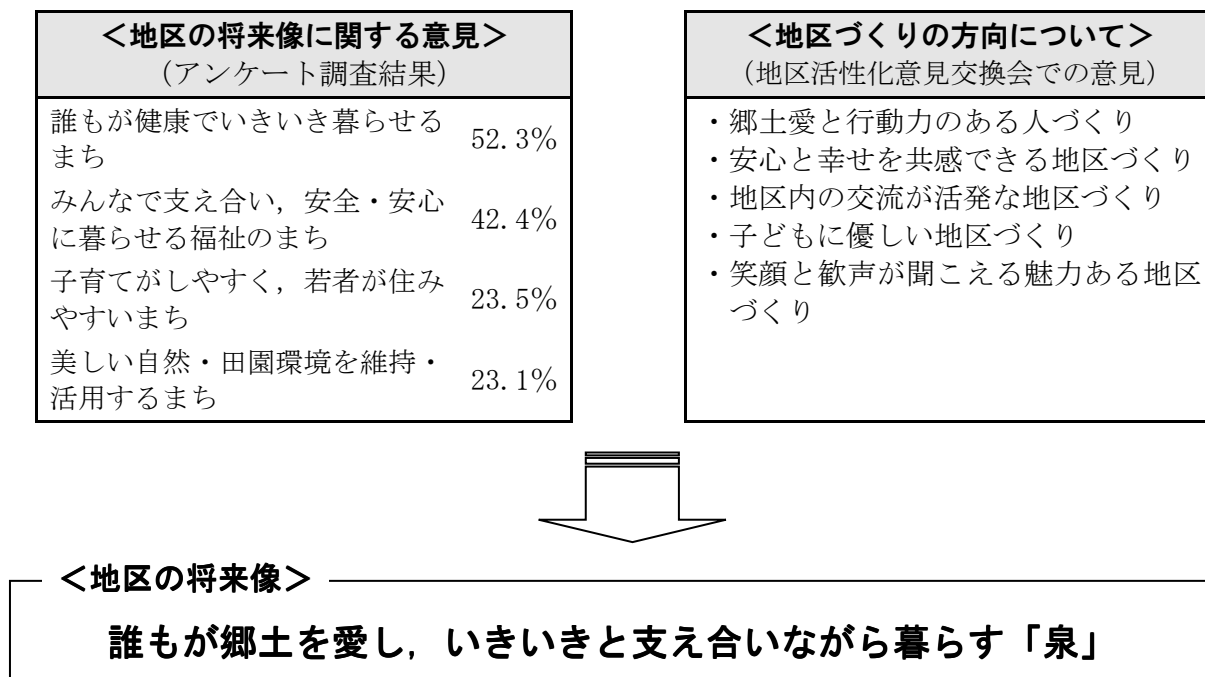
区 分	地区の問題点・課題
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進行している</li> <li>・退職後の人間関係，地区での人間関係等の難しさ，相談できる人がいない</li> <li>・一人暮らし高齢者をはじめとする高齢者のみの世帯の日常生活が不安である（引きこもりがち，情報が伝わらない等）</li> <li>・ゴミ出しが難しい（ゴミの分別及び収集日の忘れ，収集場所までの運搬）</li> <li>・通院，買い物等の外出がしにくい</li> <li>・久井ふれあいバスが不便である（回数，運行コース等）</li> <li>・自家用車が運転できなくなった時の生活が不安である</li> <li>・認知症，病気等で引きこもりがちな高齢者の支援が必要である</li> <li>・自由に動ける時間的余裕が高齢者は少ない（いつまでも働き手）</li> </ul>
若者の定住，子育て	<p>&lt;若者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が少ない（子ども，小・中学生，20～40代）</li> <li>・町及び周辺に若者に魅力ある職場がない</li> <li>・子どもの教育への不安（高校がない）で定住しにくい</li> </ul> <p>&lt;子ども&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが少ない，地区内で子ども同士の交流が難しい</li> <li>・保育所，小学校がなく，大人と子どもが交流する機会が少ない</li> <li>・子どもの遊び場がない</li> <li>・中学校，高等学校が遠い，習い事の場所がない</li> </ul>
農林業・農林地	<p>&lt;農業・農地&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノシシ等による有害鳥獣被害への対策が必要である</li> <li>・高齢化に伴う農作業の担い手が不足している（5年先が不安）</li> <li>・田の草刈りが困難化している</li> <li>・農業法人の担い手も高齢化，将来が不安である</li> <li>・地区の特産品が少ない（ない）</li> </ul> <p>&lt;林業・林地&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹が繁る等の山林の荒廃の進行と山林管理の人材が不足している</li> </ul>
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関や商店が近くにない</li> <li>・空き家が増加している</li> <li>・公共交通機関が不便である</li> </ul>
地区活動・近隣関係	<p>&lt;近隣関係・地区内交流&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所付き合いが減少，地区に対する関心が薄い</li> <li>・小学校が統合されたことで子どもの見守りがなくなり，子どもと高齢者の交流が減少している</li> </ul> <p>&lt;行事・イベント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治区の活動への参加意欲が乏しい，自分の都合を優先している</li> <li>・人口の減少と高齢化に伴い，各行事の参加者が減少している</li> <li>・若者が参加しない（盆踊り，祭り），若者との交流が乏しい</li> <li>・子どものイベントへの参加が少ない（スポーツ活動等の行事で忙しい）</li> </ul> <p>&lt;自治区の活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人がいくつも役を持っていて忙しい</li> <li>・元気な高齢者の力を活用する必要がある</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティホームが利用しにくい</li> <li>・県道，市道，林道等の側溝に落ち葉等が詰まって大雨が降った時，水が流れない</li> <li>・夜暗い</li> </ul>

## 4章 地区の活性化計画

### 1 地区の将来像

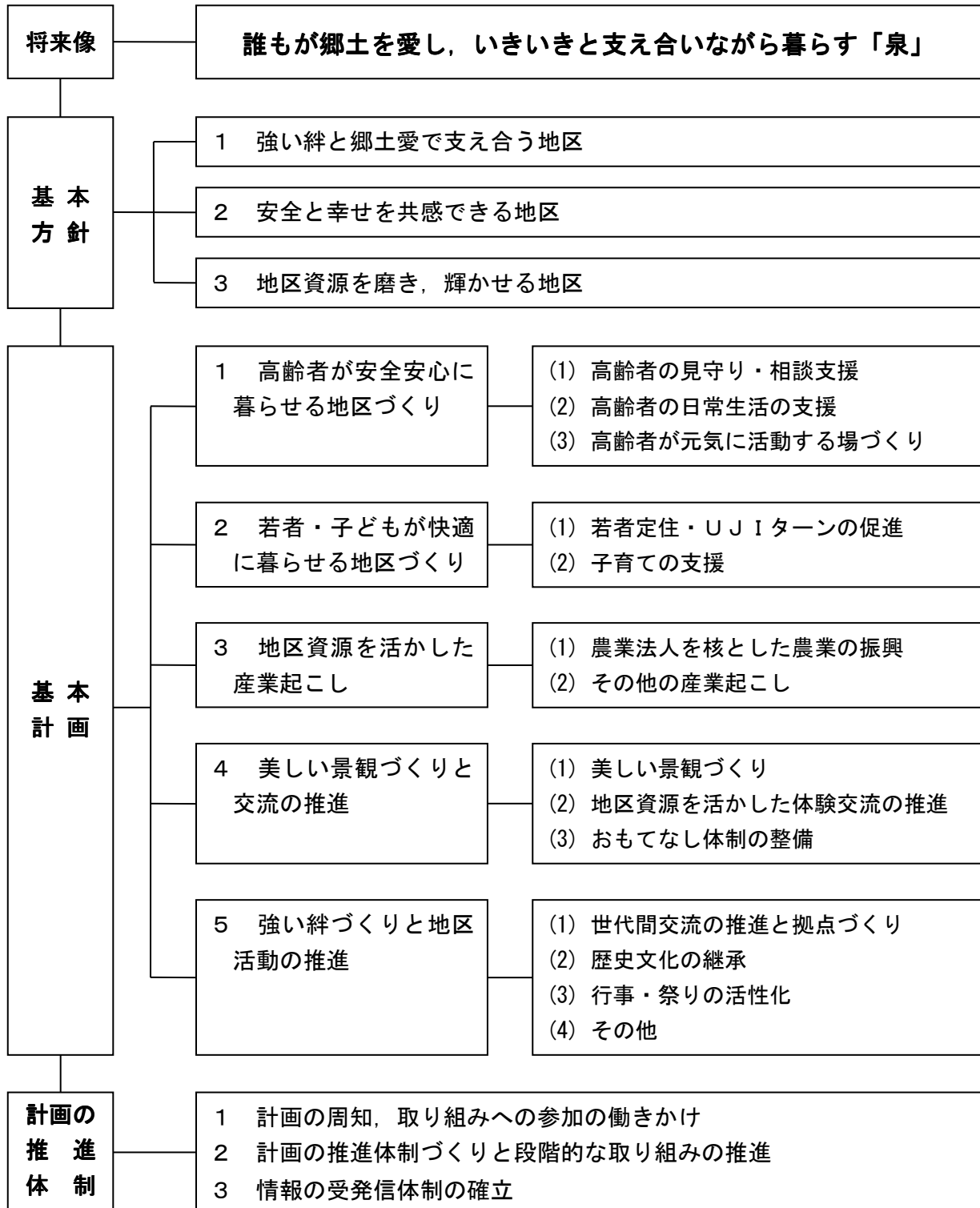
地区の将来像は、アンケート結果での地区の将来像に関する意見と意見交換会（ワークショップ）での地区づくりの方向に関する意見を踏まえて、「誰もが郷土を愛し、いきいきと支え合いながら暮らす「泉」」を掲げます。

図31 地区の将来像



地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図32 地区づくりの体系



## 2 地区づくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

### 1 強い絆と郷土愛で支え合う地区

- ・世代間交流が活発で、共に支え合う地区
- ・地区づくりに全員が参加する地区
- ・地区出身者との交流が活発な地区

### 2 安全と幸せを共感できる地区

- ・高齢者が安全安心かつ生きがいを持って暮らす地区
- ・若者と子どもが郷土愛と誇りを持って暮らす地区
- ・地区外の人に住みたくなる地区（U J I ターン）

### 3 地区資源を磨き、輝かせる地区

- ・農林地の保全と活用，農業法人を核とした農業が活発に展開される地区
- ・美しい田園景観，自然資源を活かした都市住民との交流が活発な地区

### 3 地区づくりの基本計画

地区の将来像及び基本方針を踏まえて、地区づくりの基本計画において5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容はアンケート調査結果，地区活性化意見交換会（ワークショップ）での意見をもとにとりまとめたものです。

## 1 高齢者が安全安心に暮らせる地区づくり

### (1) 高齢者の見守り・相談支援

- ・隣近所で協力し，一人暮らし高齢者などの訪問，相談支援を行います。
- ・自治区と社会福祉協議会，民生委員・児童委員が協力して，定期的に訪問します。

### (2) 高齢者の日常生活の支援

#### ア 外出の支援

- ・久井ふれあいバスを誰もが利用しやすくするために，運行コースの変更や，乗降場所までの高齢者の歩行負担を軽くするため，予約乗合タクシー（ドアツードア）の運行に取り組みます。
- ・泉自治区と地元タクシー事業者が連携し，タクシーの乗合利用の仕組みづくりに取り組みます。（外出または帰宅時刻を調整し，1台のタクシーで一緒に外出，帰宅する）
- ・路線バス（徳良線）の増便を働きかけます。

#### イ 食事・買い物の支援

- ・休日の昼に弁当の配食と見守り訪問を行います。
- ・「ニコニコ会食」ができない高齢者サロンの参加者に，泉コミュニティホームで食事を提供する体制づくりをします。
- ・高齢者の注文に応じて食料品，弁当などを定期的に配達する御用聞きサービスを，自治区と商業者が連携して確立します。
- ・移動販売業者に泉地区を定期的に巡回するよう，協力を働きかけます。

#### ウ その他の日常生活の支援

- ・高齢者のゴミ出しなどを，近隣の人が協力して支援します。

### (3) 高齢者が元気に活動する場づくり

#### ア 高齢者サロンの充実

- ・常設の高齢者サロンを泉コミュニティホームに設置し，運営します。
- ・高齢者サロンの活動に子どもが参加し，世代間交流を推進するとともに歴史文化の継承の場として活用します。

#### イ 高齢者の生きがい活動の推進

- ・高齢者の健康づくり，生涯学習・スポーツ活動の場を整備します。
- ・高齢者の経験・知識を活用した特産品，郷土料理づくりを行います。

## 2 若者・子どもが快適に暮らせる地区づくり

### (1) 若者定住・U J I ターンの促進

#### ア 空き家の活用

- ・空き家の管理活用体制（自治区で空き家の把握，所有者との調整等）を整備します。
- ・行政と連携して空き家のPRを行うなどにより，空き家を活用したU J I ターンを促進します。

#### イ 若者定住

- ・若者が交流する機会を増やします。
- ・行政と連携して，若者定住を促進する支援方策を検討します。

#### ウ 地区出身者との交流

- ・地区のホームページなどで，秋の収穫祭などの行事・祭りなどの情報発信を行い，地区出身者との定期的な交流を推進するとともに，Uターンを働きかけます。

### (2) 子育ての支援

- ・子どもの保護者へ行事・祭りなどへの積極的な参加を働きかけ，子どもに対する郷土愛の醸成を図ります。
- ・高齢者が子どもへ地区の歴史文化，昔の遊びなどを伝える場を確保します。（川遊び，昆虫採集，竹とんぼ，竹馬，お手玉，ゲートボール等）
- ・地区の子どもと保護者が集い，気軽に遊ぶことができる場（遊具の設置等）を整備します。（泉コミュニティホーム）



### 3 地区資源を活かした産業起こし

#### (1) 農業法人を核とした農業の振興

##### ア 担い手の確保、育成

- ・農業法人へ若い正職員の雇用を働きかけ、運営体制の強化に結びつけます。
- ・高齢者を担い手として位置づけ、健康状態に応じて農作業を担ってもらい仕組みづくりを行います。
- ・地区の若者及び都市住民に農業研修の場を提供し、農業の魅力を伝えるとともに将来の担い手の確保、育成を図ります。
- ・農業法人が生産している農産物の収穫時期などを活用して、若者向けの農業イベントを開催し、農業への関心を醸成します。
- ・大学と連携し、学生の支援（農繁期）を受ける体制づくりを検討します。

##### イ 農業法人の活動の充実

- ・2つの農業法人と連携して、大規模農業を確立し、特産品の開発と販売促進を図り、農業経営の安定と地区の活性化を目指します。
- ・ほ場整備済みの農地を活用して、特徴のある農業（大根、大豆、さといも、米、シソ等のブランド化）を推進します。

##### ウ 特産品の開発と販売の促進

- ・地区特性を活かした特産物を生産するとともに、泉コミュニティホーム周辺に特産物販売所を設置し、運営します。
- ・市内の道の駅への出荷など、農産物の販売ルートの多様化を図ります。
- ・手づくり工房を組織し、こんにゃく、ほしがき、シソジュース、みそ、豆腐などの特産品を製造します。また、地区住民に対する農林産物の加工品づくり講習会を開催し、参加者の拡大を図ります。

#### (2) その他の産業起こし

##### ア 林地の保全・林業の振興

- ・拡大している竹林の伐採と竹を活用した炭づくりを行うほか、竹に関わるイベント（竹灯ろう祭り等）を企画し、山林管理への関心を醸成します。
- ・間伐材を活用した産業を育成するために、地区を挙げて薪ストーブの利用や木の加工に取り組めます。
- ・山林を活用した野外レクリエーション施設（桜等の植栽、フィールドアスレチック等の遊具、ベンチ、トイレ等）の整備を検討します。
- ・山林を整備して、キノコ採りなどに活用します。

##### イ その他

- ・休耕田を活用して産業の活性化を図るため、ナマズの養殖を検討します。

## 4 美しい景観づくりと交流の推進

### (1) 美しい景観づくり

#### ア 地区環境の保全の推進

- ・地区環境を保全するために、地区を挙げて年2回の道路、河川、八幡神社、泉コミュニティホームなどの草刈り、清掃などを行っており、こうした活動を一層推進します。
- ・新聞紙、段ボール、布などを出すゴミストックヤードを新設し、こうしたゴミの保管、処分の円滑化を図ります。

#### イ 美しい景観づくり

- ・道路、河川周辺への花木の植栽、水田の畦畔への芝桜の植栽などにより、美しい景観づくりを推進します。
- ・八幡神社いこいの森、泉コミュニティ広場に花木を植栽し、住民相互の交流を推進します。
- ・泉地区の花を制定するとともに水田の畦畔、道路沿いへ植栽し、特徴のある景観づくりを行います。

表6 具体的に取り組む事業

事業名	・八幡神社一帯環境整備事業
事業の目的	・地区の眺望が良好な八幡神社を、泉地区のシンボルとなる快適な宮広場として整備し、地区住民の日常的な交流を推進するとともに、都市住民との交流の場（イベント開催）として活用する
事業の対象	・八幡神社一帯
事業の内容	・樹勢の悪い桜を伐採し、新たに植栽するとともに、広場周囲に市花の「サツキ」の植栽 ・八幡神社案内看板の設置 ・祇園祭（踊り）の保存継承、春に桜祭りの開催等 ・八幡神社一帯の定期的な清掃活動の実施

### (2) 地区資源を活かした体験交流の推進

地区資源を活かして、地区出身者、都市住民に自然、農業などの体験交流の場を提供します。

#### ア 自然資源の活用

- ・カワニナの養殖、魚の復活、キャンプ場の整備、ホタル祭りの開催などにより、ホタルの里づくりを行います。
- ・昆虫などを保護するとともに、昆虫（カブトムシ、クワガタ）採集イベントを開催します。
- ・ヒョウモンモドキの保護とその周辺の環境整備を行います。

#### イ 農業資源の活用

- ・上ビオトープ（環境保全型水路）を水遊び、メダカ、ホタル、トンボなどが観察できるふれあいの場として再整備します。また、下ビオトープも同様の再整備、活用を行います。
- ・休耕田を活用して農業体験の場（サツマイモの植付け、収穫等）を整備します。
- ・味噌づくりなどの様々な調理体験の場を提供します。

#### ウ 地区の行事・祭りの活用

- ・夏まつり，秋祭り，とんど祭り，祇園祭，健康づくりウォーキングなどの地区の行事・祭りを広域的にPRし，参加を働きかけます。

### (3) おもてなし体制の整備

#### ア 魅力的な体験コースづくり

- ・地区資源を活かして，来訪客層，季節に応じた様々な体験交流メニューを提供します。
- ・ホテル，ヒョウモンモドキ，昆虫，川魚の観察などを組み合わせた自然探勝コース，民芸品・料理の手づくり，田園ウォーキングなどを組み合わせた泉の歴史文化・景観体験コースづくりを行います。
- ・泉地区だけでなく久井地域内の他地区と連携した広域的なコースづくりを検討します。
- ・来訪客に対して郷土料理の提供や特産品を販売できる体制づくりを行います。

#### イ 宿泊施設の整備

- ・古民家を活用した宿泊交流施設の整備，農地付き貸別荘の提供を検討します。

#### ウ 観光交流情報の発信

- ・泉地区の観光交流情報を広域的に発信するため，インターネットを活用した情報発信体制づくりを行います。
- ・広島大学の留学生と交流し，留学生を通じて泉地区が世界に情報発信されることを期待します。

## 5 強い絆づくりと地区活動の推進

### (1) 世代間交流の推進と拠点づくり

#### ア 郷土料理の継承

- ・高齢者による郷土料理・農産物加工品などの講習会を開催し、若者などへの継承を図ります。

#### イ 世代間交流の推進

- ・子ども、若者、高齢者の世代間交流を推進します。
- ・後継者（若者）との交流機会の充実を図ります。
- ・地区住民の多様な交流を推進するため、泉コミュニティホーム一帯の整備を行います。

表7 具体的に取り組む事業

事業名	・泉地区賑わい創出事業
事業の目的	・泉地区のコミュニティ拠点としての役割を強化し、多世代の様々な交流、生涯学習活動を推進する。 ・集落全員参加で作業を行い、郷土愛を醸成する。
事業の対象	・泉コミュニティホーム
施設の役割	<p>&lt;子どもの交流&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児と保護者の交流、遊び場</li> <li>・放課後、児童と一緒に遊んで帰る場</li> </ul> <p>&lt;生涯学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なサークル（囲碁、将棋等）活動の場</li> <li>・料理講習会の開催、特産品づくりの場（四季折々の野菜、たけのこ、わらび、七草等の加工）</li> </ul> <p>&lt;高齢者の交流&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常設の高齢者サロン等の場</li> </ul> <p>&lt;子どもと高齢者の交流&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が地区の歴史文化、昔の遊び、手づくり体験等を子どもへ伝える場（川遊び、昆虫採集、竹とんぼ、竹馬、お手玉等）</li> </ul> <p>&lt;地産地消&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新鮮野菜、特産品販売の場</li> </ul>
施設整備の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泉コミュニティホーム周辺の美しい景観づくり（花壇の設置、市花である「サツキ」の植栽等）</li> <li>・泉のシンボルとなるイルミネーションの設置</li> <li>・乳幼児の遊び場（遊具、砂場の設置）、高齢者の健康づくりの場（鉄棒等）の整備</li> <li>・施設の整備（イスの配置、トイレへの手すりの設置、収納庫の整備等）</li> <li>・泉地区案内看板の設置</li> </ul>
運営体制	・常勤の管理者の配置

## **(2) 歴史文化の継承**

- ・地区の歴史文化の学習を推進するとともに、こうした学習活動を通じて子どもの郷土愛の醸成を図ります。
- ・地区に残る伝統行事、昔話（民話）を掘り起こし、地区の財産として次世代が継承できるように、高齢者の経験・知識の記録作業を早急に行います。

## **(3) 行事・祭りの活性化**

- ・季節ごとのウォーキングコースづくりとウォーキングを通じた交流を推進します。
- ・子ども会単位でのとんど祭りを見直し、地区単位での開催を検討します。
- ・世代間交流イベントの開催を地区全体で盛り上げます。
- ・グラウンドゴルフ、ビーチボールバレー、ウォーキングなどのスポーツイベント、老人会、子ども会などによるイベントの充実を図ります。
- ・地区の絆づくりのために、スポーツ大会、飲み会、カラオケ大会を開催します。
- ・地区運動会の復活を検討します。
- ・行事・祭りの参加者を増やす対策を検討します。

## **(4) その他**

- ・夜間の安全の確保と維持費の軽減を図るため、外灯の増設や太陽光発電の外灯の設置に取り組みます。

## 4 計画の推進体制

### (1) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

地区住民へあらゆる機会を通じて「泉地区活性化計画」を周知するとともに，取り組みへの参加を働きかけます。

- ・ 泉地区活性化計画概要版を全戸配布します。
- ・ 各組及び関係組織の会合で泉地区活性化計画の説明会を行います。

### (2) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

#### ア 計画の推進体制づくり

- ・ 泉自治区の運営委員の増員により，個人へ役が集中することの改善を図ります。特に，今後の活動の担い手になる若者の参加を働きかけます。
- ・ 泉地区及び地区外への情報発信を強化するため，広報部会を新規に設置します。
- ・ 泉地区の各種団体との連携を強化し，一体的かつ幅広い活動を推進します。
- ・ 人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）を行います。

#### イ 段階的な取り組みの推進

- ・ 計画の優先順位付け（地区の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを推進します。

##### ＜優先的に取り組む事業の候補＞

- ・ 泉地区賑わい創出事業
  - ・ 花木の植栽，イルミネーションの設置，遊具の整備，設備・備品の充実等
  - ・ 高齢者常設サロンの設置，歴史文化・郷土料理の継承，特産品づくり・販売等
- ・ 八幡神社一帯の環境整備事業
- ・ 泉地区の情報発信強化事業（泉自治区のホームページの開設等）

#### ウ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・ 住民，各種団体，農業法人，企業などとの連携を強化します。
- ・ 地区出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援を活用します。
- ・ 講習会，研修会，先進地視察などの実施による人材の育成を図ります。

### (3) 情報の受発信体制の確立

#### ア 地区内向けの情報発信

- ・ 泉自治区掲示板を充実するとともに，泉自治区だよりを新規に発行します。
- ・ 若者世帯などに対し，インターネットを活用した情報の発信を行います。

#### イ 地区外向けの情報発信

- ・ インターネットを活用した泉地区の情報発信体制づくりを行い，地区出身者，都市住民に対して地区の魅力・活動を発信することにより，交流を推進します。

#### ウ 人材の確保

- ・ 泉自治区のホームページを管理，活用できる人材を確保，育成し，タイムリーな情報の発信体制を確立します。

## 資料 計画策定の取り組み

### 計画策定の経緯

日 程	委員会等	協議事項
平成26(2014)年 7月4日(金)	第1回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域計画策定委員会の設置</li> <li>・「地域計画」策定の進め方について</li> <li>・アンケート調査, 意見交換会について</li> </ul>
8月11日(月)～ 8月23日(土)	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査の実施(地区内住民(16歳以上))</li> </ul>
10月19日(日)	第1回泉地区活性化 意見交換会(ワーク ショップ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査結果の報告</li> <li>・地区の魅力・資源と活用のアイデアについて</li> </ul>
11月23日(日)	第2回泉地区活性化 意見交換会(ワーク ショップ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区で困っていることとその解決のアイデアについて</li> <li>・参加者が関心のあること, 今後具体的に組みたいこと</li> </ul>
12月14日(日)	第3回泉地区活性化 意見交換会(ワーク ショップ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別の具体的な取り組みについて</li> </ul>
平成27(2015)年 1月31日(土)	第2回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画素案の協議, 修正</li> </ul>
2月17日(火)	第3回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画案の協議, 承認</li> </ul>